

精神保健福祉援助実習指導Ⅱ

担当教員 茶屋道 拓哉、平川 泰士、福崎 千鶴

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①精神保健福祉援助実習の意義について理解した上での態度を身につける。②精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明できるようになる。③個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。⑤具体的な体験や援助活動を、価値や倫理に基づき、専門的知識及び技術として習得していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神保健医療福祉の現状に関する理解①障害者総合支援法における給付等の理解
2	精神保健医療福祉の現状に関する理解①障害者総合支援法における地域生活支援事業の理解
3	実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解
4	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解
5	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）
6	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
7	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者による三者協議会
8	実習先の理解と実習計画の作成（個別）
9	精神科病院・地域における障害福祉サービス事業所等の見学
10	精神科病院・地域における障害福祉サービス事業所等の理解
11	実習中における巡回指導・スーパービジョン
12	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成（集団）
13	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成（個別）
14	実習の評価全体総括会（実習指導者を含めた実習報告会の実施）①全体報告
15	実習の評価全体総括会（実習指導者を含めた実習報告会の実施）②個別指導

【履修上の注意事項】

- 1 本科目と同時に履修する精神保健福祉援助実習との関係から、常に臨床場面を想定し、専門職としてのロールプレイ・演習・事例検討中の発言・事前学習準備など主体的参加を求める。
- 2 必要に応じて用いられるケースや学生同士の自己開示における専門職業人としての守秘義務の徹底。
- 3 実習や事例学習にて得られた知見をもとに専門職としての自己と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】

実習報告書等による評価（60%）

スーパービジョン時の応答や態度、チームとして取り組む姿勢（40%）

【テキスト】

特に指定しない（必要に応じて随時資料配布）

【参考文献】

日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 9 精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規